

発達障害への対応から考える 子育ての基本

② 発達障害とは？

医師 元田玲奈



医学モデルにおける「障害」

- ・「障害」とは、身体のどこかに原因があり、
医学的に診断される個人の疾病・損傷・機能制限のこと
- ・生まれつき、または怪我や病気などで不具合が生じているのは、「**個人の問題**」
- ・**個人**が治療やリハビリに取り組んで解決していくもの

と する見方

「発達障害」は病気？

- ・「障害」と言われると・・・
- ・一般的な「病気」のイメージとは違う
- ・多様性の一つ（ニューロダイバーシティー）
- ・社会があるから生じる概念
- ・文化の違いでも左右され得る
- ・発達していけば、「障害」ではなくなることもある



医学モデルにおける「障害」



階段を昇れない
個人の問題

昇れるように個人が
問題解決する



社会モデルにおける「障害」

- 「障害」を社会の仕組みによって生み出される不利益や活動の制限とする見方



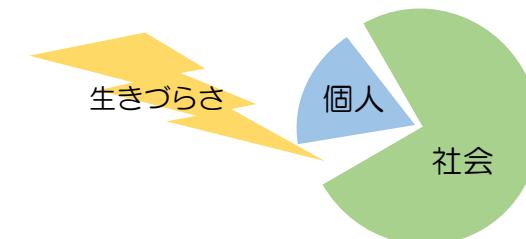
段差が「障害」



段差「障害」をなくす

療育モデルにおける「発達障害」

- 「障害」を個人の発達特性・凸凹と「社会の仕組み」とのミスマッチとする見方



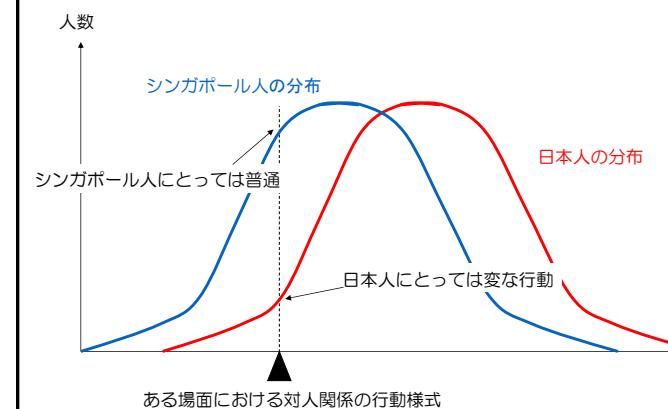
療育モデルにおける「発達障害」

- 「障害」を個人の発達特性・凸凹と「社会の仕組み」とのミスマッチとする見方

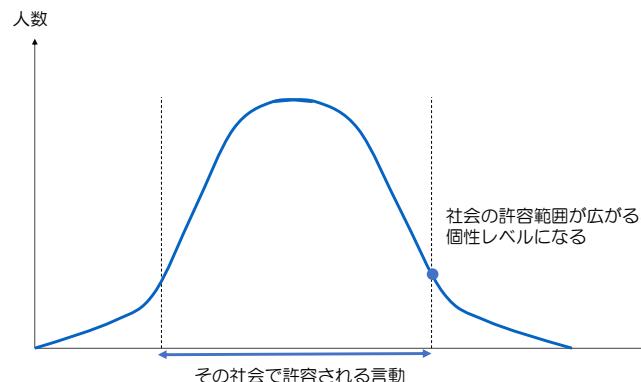
ミスマッチを
小さくして
生きやすくしていく



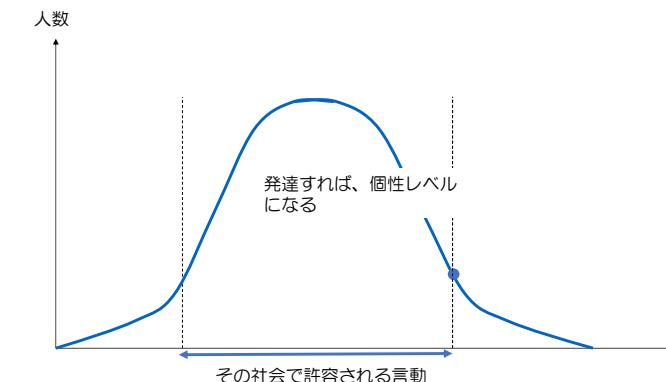
「社会」との関係が問題



「個性」と「障害」の境界は？



「個性」と「障害」の境界は？



「障害」？「特性」？「個性」？

発達障害	発達特性	個性
多い	困りごと	少ない
支援	対応	工夫

発達特性・凸凹 = 生まれつきの遅れ・偏り

困りごと・不適応 ← 凸凹と環境とのミスマッチ

発達障害 = 発達特性・凸凹 + 不適応

「不適応」から「適応」へ

- 発達特性 + 不適応 = 発達障害
- 理解と配慮と工夫が必要

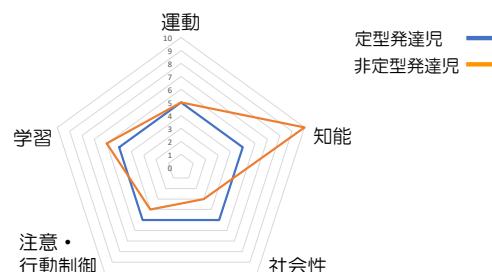


誤解されやすく、煙たがられる

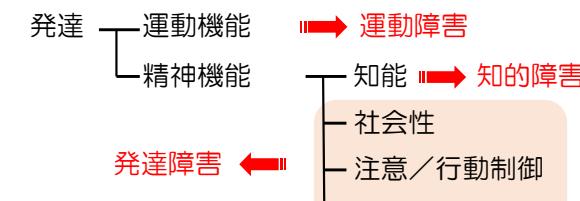
注意・
行動制御
社会性

「不適応」から「適応」へ

- 発達特性 + 適応 = 個性
- 発達特性は強みにもなる！（凸凹は残る）



どうして「発達障害」というの？

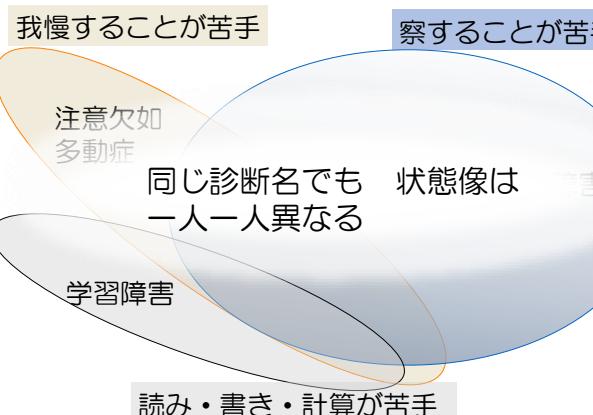


周囲に分かりにくい
生きづらさがある

一言で表しているのが「診断名」

診断は「本人の生きづらさ」を分かってもらう合図

発達障害の関係



何が問題なの？

- 社会は待ってくれない
- 本人が困っている ←→ 周囲が困っている
- *困っている なら「対応・支援」
- *なぜ困っているのか? > 特性の見立て・診断
- *困りそう も 放置しない！
- *診断は「適切な対応」のため（本人のため）

診断をめぐる問題

- 初めに診断ありきではない
- 医学モデル VS 療育モデル
- 「っぽい」「グレー」「特徴がある」は、診断と同じこと
- 診断されていない ≠ 何もしなくて良い
- 今は困っていない ≠ 何もしなくて良い

「生まれつき」ならどうしようにもない？

- 『凸凹』は残るが、『困り感を軽減』はできる
- 誰にでも発達する力はある
- 経験の中で対処法の獲得
- 周囲（特に養育・教育者）の理解と働きかけ

→ 『治療』ではなく『対応・支援』

→ 『子育て』そのもの

→ 『発達障害は発達する』